

はなおだより



北九州市立花尾小学校
学校通信 学力特集号

平成28年度全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

今回ははなおだよりは「学力特集号」として、本校児童の課題とその解決に向けた今後の取組についてお知らせいたします。

1 教科に関する調査結果

① 学力調査結果と課題

資料の内容を的確に読み取り、分かったことや自分の考えを書くことが求められている国語Bでは全国平均正答率を下回る結果となりました。また、算数科はA、Bともに全国平均正答率を上回っていますが、正答率が低い問題の傾向から国語科と同様に、「考えを書くこと」「考えを表現すること」に課題があることが明らかになりました。

教科・区分	全国平均正答率との比較	課題
国語A	同程度である。	問われている内容に対して適切に答えること。
国語B	下回っている。	文字数の制限やキーワードを使うことなどの条件を満たして書くこと。理由や根拠を明確にして自分の考えを書くこと。
算数A	上回っている。	数量関係の領域のグラフや式で表現された関係を正しく読むこと。
算数B	上回っている。	図形の性質を活用して日常事象を解決することや理由を説明すること。

② 学校における学習状況に関する調査結果と分析

★ 粘り強くがんばるが

「考えを書くこと・表現すること」に苦手意識

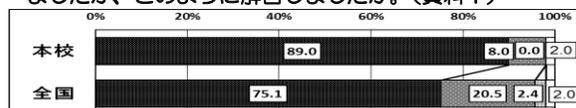
国語の問題を解く際、多くの児童が文章を書くことに粘り強く取り組んだことは評価できます。(資料1)しかし、実際には自分の考えを分かりやすく書くことができずに、まとまりのない説明になっているものが国語にも算数にも多く見られました。

国語科の授業において、「目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていない児童」が約40%います。(資料2)また、「文章を読むとき、段落や話のまとまりごとに内容を理解しながら読んでいない児童」が約30%います。このような児童は資料の内容を読み取って分かったことや自分の考えを書く問題の正答率も低くなっています。(資料2)

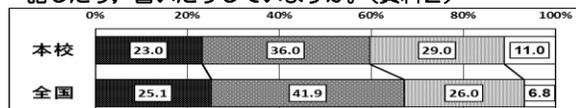
「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができているか」ということについても「あてはまる」と回答した児童の割合は58.0%と全国平均を下回っています。(資料3)

自分の考えに自信がもてずに発表が苦手な児童や、自分の考えに固執して、友達の考えを受け入れることが苦手な児童がまだまだいると思われます。

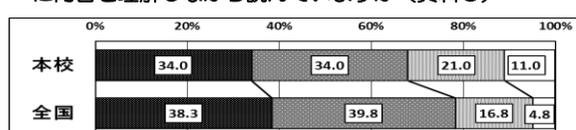
○ 今回の国語の問題について、解答を文章で書く問題ありましたが、どのように解答しましたか。(資料1)



○ 国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか。(資料2)



○ 国語の授業で文章を読むとき、段落や話のまとまりごとに内容を理解しながら読んでいますか。(資料3)



○ 話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができていますか。(資料4)



2 家庭学習習慣等に関する調査結果と分析

★ 1日当たりの学習時間が大きく不足

1日当たりの勉強時間が1時間以上の児童は48.0%で全国平均より-14.5%と大きく下回っています。一方、「全くしない」「30分未満」の児童は19.0%で5分の1の児童が、ほとんど家庭学習をしていないということになります。(資料5) また、半数近くの児童が計画を立てて勉強をしていません。(資料6)

家庭学習が主体的に行われず、その結果、学習時間が不足していると思われます。

★ 宿題はしているが授業の復習が不足

学校の宿題をきちんとしていることは評価できます。(資料7)一方で、「家庭で、学校の授業の復習をしていますか」という質問に、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童は46.0%で全国平均(55.2%)を大きく下回っています。(資料8)決められた宿題はするが、それ以上はしない・・・。⇒決められていないこと(自主学習)はしないという家庭学習の姿と重なります。

3 課題を解決するための重点的な取り組み

★ 「考えを書くこと・表現すること」を身に付けるために

<10月のはなおだよりでお知らせした内容に加え、次の2点に留意して授業を行います。>

- 書く力を身に付けるため、学習の感想や分かったことを自分の言葉でまとめる活動を学習の中に位置付けています。下学年では書き方のパターンを身に付けるために、()の中にキーワードを入れることから始めます。上学年では、キーワードや字数などの提示された条件に合わせて書くなど実態に応じた活動を行います。
- 思考力・表現力を高めるため、めあてや学習問題に対して、自分の考えを書く活動と少人数や全体で話し合う活動を1時間の学習の中に位置付け、話し合いを通じて、自分の考えを広げたり深めたりすることができるようにします。

★ 家庭学習時間の不足を解消するために

次の2点についてご家庭での確認と励ましをお願いいたします。

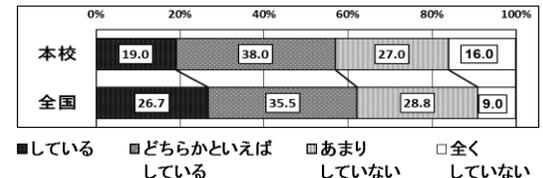
- 家庭学習＝「宿題」＋「自主学習」 家庭学習の時間は学年×10分間が目安 例えば6年生では、宿題が40分で終わった場合、少なくとも20分は自主学習が必要です。漢字や計算の練習、資料を使つての調べ学習、明日の予習など、自分で決めて計画的に取り組むことが大切です。どんなことをしたらよいか分からない時は、担任にご相談ください。
- 家庭学習チャレンジハンドブックの活用 家庭学習のポイント(学習内容・取り組み方)などがとても分かりやすく掲載されています。ぜひ、ご家庭でお子様と一緒に読んでいただき、活用してください。

毎日の「宿題＋自主学習」によって家庭学習時間が増えれば、学習内容が理解できるようになります。それにより学習意欲が芽生え、学習の質も高まっていきます。理解できれば意欲も高まり、意欲が高まれば、基礎学力の定着、書く力・表現力の向上へとつながります。そのためにも、毎日の積み重ねが大切です。3年生以上は、各自、自主学習ノート(5mm方眼)を用意していますので、ご家庭でもノートの確認や励ましをお願いいたします。

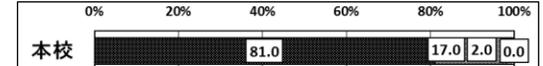
○ 授業時間以外における1日当たりの勉強時間(資料5) (学習塾・家庭教師等で勉強している時間を含む) <月曜日から金曜日(学校がある日)>



○ 家で、自分で計画を立てて勉強しているか。(資料6)



○ 家で、学校の宿題をしていますか。(資料7)



○ 家で、学校の授業の復習をしていますか。(資料8)

